

2021 年度実施概要

教育委員会名

大牟田市教育委員会

採択活動名

有明海や三池港を生かした大牟田海洋教育プロジェクト

取り組みの概要

1 推進協議会等の実施状況

- 年間計画に基づき、年間 1 6 回の推進協議会・連絡会議・ワーキンググループ会議を行い、進捗状況等を確認しあい共通理解を図った。

2 特例校の申請状況（申請内容・校数・結果）

- 本年度申請なし

3 公開研究会・授業研究会・教員研修会・発表会等の実施状況

- 「海洋教育推進校学習交流会」（令和 3 年 9 月 2 9 日）オンライン会議
 - ・市内の推進校である 4 小学校の 6 年生が、各校の現在の取組や今後の取組について伝え合い、情報交流をするとともに、お互いの交流を深めることで、児童が主体的に実践を行い、4 校が協力して海洋教育を進めていくことができるようにした。
- 「海洋教育オンライン合同授業」（令和 3 年 9 月～令和 4 年 1 月）
 - ・3 年～6 年の各学年で 1～3 回（コロナ禍のため、学年で実施回数に差が出た。）、オンラインを活用した合同授業を通し、海洋教育における学習のねらいや流れを共通理解するとともに、それぞれの学校の取組を交流することにより、海の環境保全、三池港の利用、海との共生など、地域の特性を活かした学習活動について理解を深めた。
- 「『三池港』合同見学」（令和 3 年 9 月 2 1 日、2 4 日、2 7 日）
 - ・推進校合同又は各学校による「三池港」の見学と港内クルージング（高速船に乗船）を行い、海の環境や船舶を用いた人や物の輸送・災害と海など、「海を知る・守る・活用する」観点から、三池港の歴史とその役割について実際に現地で学ぶと共に、現在も三池港が現役の港として地域の暮らしを支えていることについて理解を深めた。
- 「海洋教育こどもサミット 2022in おおむた」オンライン子どもサミット（令和 4 年 1 月 2 1 日）
 - ・九州・沖縄地区の海洋教育推進校 1 2 校によるポスターセッションやパネルディスカッション等を通して、海洋教育の学習成果を交流するとともに、海と人との共生についての理解・考え方を深めた。
- 「連絡会議」「ワーキンググループ会議」での研修会（随時）
 - ・本年度の取組内容や来年度の海洋教育推進に向けて推進校の職員が話し合いを行い、海洋教育で育成する資質・能力について共通理解するとともに、来年度のカリキュラム編成について各学年の方向性について協議を行った

4 外部機関との連携

- 「九州・沖縄海洋教育連絡協議会」(令和3年6月18日:オンライン会議)
 - ・九州・沖縄における「海洋教育パイオニアスクール」各校の学校間交流を通して、今後の各地域における海洋教育の充実を図った。(九州・沖縄地区小学校・教育委員会12団体の参加)
- 海洋教育の4校合同実践取組におけるゲストティーチャーとしての連携
 - ・「有明海干潟観察会」:世界文化遺産『三池港』と有明海を学ぶ会
 - ・「『三池港』合同見学」:三池港にぎわい交流拠点づくり推進協議会

5 地域・保護者を対象とした報告会等の実施状況

※本年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、地域・保護者を対象した報告会・発表会や授業公開は実施していない。

6 その他教育委員会としての取り組み

- 本市教育委員会主催の「ユネスコスクール子どもサミット」(令和4年1月)の中で、推進校の駛馬小学校が4校を代表し、「4校協働大牟田海洋教育プロジェクト～海と人との共生 宮原坑と三池港・海のつながり～」として発表を行った。
 - ※発表校でビデオ撮影したものを集約して、DVDを作成して各学校へ配布した。
- 第9回「全国海洋教育サミット」に参加し、推進校児童が市内の取組を全国に発信した。(オンライン会議)
- 大牟田市海洋教育副読本の作成・活用
 - ・令和2年度作成した暫定版の活用を図るとともに、さらに子供たちの主体的な課題解決につながるよう改訂を加えた。
 - ・改訂版では、総合的な学習の時間(海の時間)のみならず、社会科や理科の学習で活用できるように工夫した。また、海洋リテラシーを育むことができるように改善した。
 - ・海洋教育推進校(4校)の3年～6年全児童と、市内の全小中学校に学習資料として配布した。

活動参加校名

1. 大牟田市立みなと小学校
2. 大牟田市立天領小学校
3. 大牟田市立駛馬小学校
4. 大牟田市立天の原小学校